

校内研究活性化プロジェクト研究通信

第6号 令和5年(2023年)9月11日発行

九月に入っても、夏を思わせるような暑い毎日が続いておりますが、皆様お変わりありませんでしょうか。プロ研通信第6号では、8月22日(火)に開催した第5回校内研究活性化プロジェクト研究会での研究委員のみなさんの様子をお伝えします。

今回は、第4回プロジェクト研究会で昨年度の研究委員が事例発表の際に使用されていた「校内研究省察ポスター」の今年度版を作成していただきました。事例発表を見ていただき、研究委員のみなさんに大きな学びがあったように、今回作成していただいたポスターが各実践校の先生方、そして次年度以降の県内各校の先生方の学びにつながります。また、作成されている様子からは、校内研究を通じて各実践校の日々の授業改善につなげたいという研究委員の先生方の思いが伝わってきました。

第5回

プロジェクト研究会

概要

研究会のめあて

校内研究の取組を校内研究省察ポスターにまとめ、
2学期以降の取組につなげよう!

教員対象質問紙調査の結果から見えた課題

「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」と聞き、一体的に充実している状態を具体的にイメージできますか？また、それが児童生徒の学びで実現するよう意識して指導していますか？1学期に実施した教員対象質問紙調査の回答を集計したところ、以下のような結果が出ました。

児童生徒が個別最適に学ぶ姿をイメージできる	児童生徒が協働的に学ぶ姿をイメージできる	一体的に充実させることを意識して指導している
82%	93%	47%

*令和5年度校内研究活性化プロジェクト研究実践校の教員91名を対象にした質問紙調査の結果

このことから、指導者が児童生徒の個別最適に学ぶ姿や協働的に学ぶ姿をイメージできても、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることを意識して指導できることに必ずしもつながらないという結果が浮かび上がってきました。

そこで改めて、今後の研究を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を具体的にイメージし、授業につなげられる校内研究のあり方を探究していくことが大切だと考えます。では、「児童生徒の『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を具体的にイメージし、授業につなげられる校内研究」を実現するためにはどのようなことが必要なのでしょう。

我々はまず、教員自身が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることを経験し、その場面について考察することで、そのイメージをもつ必要があると考えます。

そこで、今回のプロジェクト研究会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を具体的に捉え、イメージをもち、各実践校の先生方に伝えていただけるように省察ポスターを作成していただきました。

校内研究省察ポスターの作成

校内研究省察ポスター作成の目的

研究委員のみなさんには、1学期の校内研究を基に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実している場面を振り返り、価値付けをしていただきました。作成していただいたポスターには、完成時に研究委員のみなさんの学びと抽出教員の学び、そして抽出児童生徒の学びのつながりが示される予定です。



只今、校内研究省察ポスター作成中！



この省察ポスターについては、第7回校内研究活性化プロジェクト研究会(第3回校内研究主任パワーアップ研修)の際に、掲示させていただき、受講者の先生方に御覧いただきたいと考えております。御協力、よろしくお願いします。

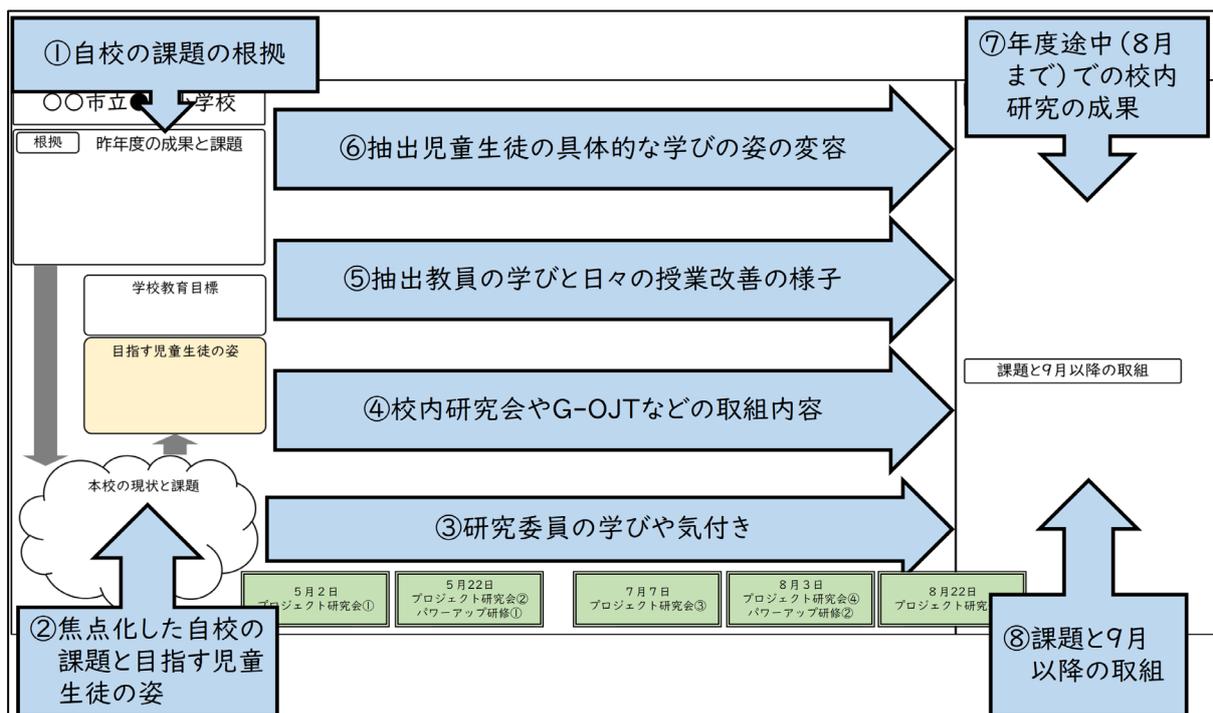
各実践校の先生方には、

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を具体的にイメージし、2学期の実践につなげる。
 - 教員の学びがどのように子どもたちの学びを支えているのかを見て、御自身の次の学びへとつなげる。
- という二つの視点から、ポスターを見ていただきたいと考えています。



校内研究省察ポスターのレイアウト

校内研究省察ポスターは下図のようなレイアウトで構成されています。



ポスターを見ていただく上で、二つのつながりに着目してください。一つ目は、横のつながりです。③～⑥の矢印で示しているように、校内研究の取組や教員・児童生徒の学びの変化が時間の経過とともに記されています。二つ目は縦のつながりです。③～⑥それぞれの取組と学びがどのようにつながっているのかを読み取っていただきたいと思います。

滋賀大学教育学部附属小学校

副校長 楠見 丹生子先生による指導助言より

五つのポイントで御指導いただきました！

1. 省察ポスター作成の合間の「交流」の時間からみてきたこと

本日の研究会の初めに、加藤先生(滋賀県総合教育センター主幹)から「今回のプロジェクト研究会の目的はポスター作成の中でも、『交流』の時間です」という話がありました。みなさんにとってその時間がいかに大事な時間であるかが分かりました。なぜなら「交流」の中で先生方が自然と集まり、意見を交わされる中でたくさんの気づきがあったからです。

例えば、A先生(V小学校研究委員)が自分のポスターの中では「まだ個別最適な学びが弱い」と仰っていました。B先生(W小学校研究委員)は「抽出教員と抽出児童への取材が必要だから⑤と⑥の部分については今は作らず、持ち帰って十分に聞き取りをしてから仕上げよう」と話されていました。C先生(X中学校研究委員)は「今日はここくらいまではできそうだ」という全体の構成に関する気づきを話されていました。D先生(Y小学校研究委員)は授業の交流や参観を含めて様々な質問をされており、「交流」の話題を広げてくださいました。

このような交流をすることで、後半のポスター作成の集中具合が大いに変わりました。まさに今大事にされている子どもたちとの授業の様子がここで体现されており、私たちも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を経験するということがこの数時間の間で行われているのだなと感じました。おそらく、先生方は今日、学びの自覚をもって帰られることと思います。



「交流」の様子

2. 校内研究省察ポスターの活用を

私は昨年度の研究でもこのポスター作りを通して大いに学ばせていただいたわけですが、このポスターを各校でいかに活用するかを考えていただきたいと思います。作っていただく中で、みなさんにとってはこれまでの取組を思い出したり、それぞれの取組をリンクさせたり、抽出教員と研究委員とがどのようにつながっているかを再構成されたりしていました。それ自体に大きな意義があります。しかし、みなさんにはこれから学校に持ち帰っていただいて、掲示をし、各校の先生方と共有を
する中で、今再構成されていることや今の思い・意図を伝えるという役割があります。そこで、このポスターをどのように各校で共有しようかということを考えていただきたいのです。



滋賀大学教育学部附属小学校
副校長 楠見 丹生子先生

3. ポスターは大切な研究の産物

ポスターを提示された時、自校の先生方からたくさんの御意見やフィードバックが返ってくると思います。校内研究のプログラムの際には研究委員の先生の方がよく知っておられるので、ポスターにかかれていますと思うのですが、例えば「実はこっちにも矢印が伸びてるよ」や「あの先生はこのように仰っていたから、こっちにも矢印が伸びているのではないですか」というような意見をたくさんもらって、矢印でつながるリンクをたくさん増やせるといいと思います。「赤い矢印(「協働的な学び」が起点となった個人の気付きや学びなどの「個別最適な学び」)が多いな、やはり青い矢印(個人の気付きや学びなどの「個別最適な学び」が起点となった「協働的な学び」への還元)を増やしていかななくては」というような思いを受けて、次のプログラムを先生方が組んでいかれると、学びがつながり、往還のある学びになっていくのではないかと思います。

昨年度、ポスターを掲示しておく、校内研究主任(研究委員)以外の先生方もポスターづくりに参画して下さったという学校がありました。今は校内研究主任の先生がかいておられますが、中にはイラストが得意などということも含めて、「私、これをかいておくよ」や「こういう内容がかいてはどうか」などのアイディアがあった時に、推進委員会やグループリーダーの先生方にもつくっていただくチャンスがあると、校内研究主任の先生だけががんばってつくったポスターではなく、みんなでつくったポスターとなり、最後には研究紀要以上に大切な研究の産物となるのではないかと思います。

4. よりよりポスターにしていくために

今日みなさんは初めてこのポスターづくりに取り組まれたので、雛型に沿ってスタートされていますけれども、ここからはそれぞれの学校の独創性があってもよいと思っています。例えば、「この部分はどんどん研究が盛り上がっていきました」と上下に展開したり、盛り上がっている部分に色を付けたり、新たな視点をつけ足したりすることが今年はあるのもよいと思います。そこに今年度は先生方の独創性や創造性が加わるとさらによいものになると思います。

5. 校内研究を自分事として捉えてもらうために

2学期(9月以降)に授業研究会がどんどん行われていくかと思っています。研究主任の先生方は、研究がより自分事として各校の先生方の学びにつながるように、考えてくださっていると思います。一本一本の授業を研究として進めていく中で、先生方に「何を」「どのように」参観していただくのか、協議していただくのか、その内容をできれば授業の前に伝えてください。先生方が自分の実践も含めて、自分事として授業を見て、研究会に参加していただけるように考えてくださるとよいかと思います。

研究委員のみなさんの振り返り

○第5回プロジェクト研究会の振り返り

- ・他校のポスターを拝見したことによって、自校の取組と比較し、他にできることはないかと、新たな実践について考える機会となりました。参観ウィークなども取り入れたいなと思いました。
- ・自身や自校での校内研究の取組を振り返りながら、ポスターの作成に取り組むことができました。ポスターにまとめることで自分の校内研究主任としての課題も発見することができ、これからの目標も考えることができました。
- ・1学期に取り組んできたことを整理し、2学期に向けての再確認をすることができました。省察ポスターを作ることが目的ではなく、その演習の中で自分が気付いたことや、他の先生方の思いから、学びを深めることができました。見通しをもてるよい時間になりました。
- ・校内研究主任として、本校でどのような継続的な学びがあったのかを振り返ることができました。「新たな教師の学びの姿」を少しでも実現するために、何が必要かを今一度考えてみたいですし。

○第5回プロジェクト研究会での学びを自校の校内研究会でどのように生かしたいですか

- ・ポスター作りを通して、1学期に行った実践が、どのようなねらいをもっていたか、改めて自分の考えを整理することができました。このポスターを用いて今回のプロジェクト研究のねらいを校内の先生方に広められるように活用したいです。また、先生方と一緒にポスターを作成して校内研究が自分事となるように仕組んでいきます。
- ・省察ポスターについては、2学期の早い段階で全教員に紹介して、学校全体としての学びの振り返りと今後の見通しをもつのに役立てたいです。
- ・2学期初めに時間を取って交流したいと思います。作成したものを基に確認することと、1学期を振り返って思ったこと、気付いたこと、取り組んだことを付箋に書いて貼ってもらい、それも書き込んでみようと考え中です。
- ・まずは1学期の取組を振り返り、どこに改善点があって、変えられるかを考え、動いていくことが大切だと思いました。

第5回プロジェクト研究会を終えて、研究員の思いと今後に向けて

今回、校内研究省察ポスターの作成をされている研究委員のみなさんの姿を見て、改めて思ったことがあります。それは「この姿がまさしく『新たな教師の学びの姿』なのだ」ということです。私たち研究員は各実践校の様子を全て見せていただいているわけではありませんが、ポスターを作成していただいている時の研究委員のみなさんの様子やお話、ポスターの内容から、みなさんが各実践校の課題を校内研究主任として分析し、プロジェクト研究会を通して学んだことを生かして実践されていることがよくわかりました。そして、振り返りから見えてきた新たな課題を次の学びにつなげていくというプロセスは、教員の「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実している姿だと思います。今後、各校を訪問させていただき、校内研究会を参観させていただきます。その中で、学びに向かうたくさんの方の姿に出会えることを楽しみにしています！



研究員 稲益 圭吾
いなます けいご



研究員 島内 佑祥
しまうち ゆうしょう